

# 英語による実践的コミュニケーション活動の研究

## I 研究主題

英語における実践的コミュニケーション能力育成に関する研究  
—小学校英会話学習を踏まえた中学校における指導のあり方—

## II 研究主題設定の理由

国際化の進展に伴い、国際社会の中で日本人としての自覚をもち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することは極めて重要である。特に、これからの国際社会で生きる子供たちが、自己を確立し、異なる習慣や文化をもつ人々と共に生きていくためには、人と人との相互理解・相互交流が大切であり、子供たちに、相手の立場を尊重しつつ自分の考えや意思を積極的に表現するコミュニケーション能力を、その基盤として育成していく必要がある。

本市においては、「足利市の教育目標」に「日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。」を児童期・青年期の目標として掲げ、小学校においては英会話学習が展開されているところである。また、中学校では、ALTを全中学校に配置して5年目になり、職員の一員として活躍しているところである。しかし、「聞くこと」や「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力の基礎を養うためには、小中学校の連携を図りながら中学校英語教育の指導を一層充実させ、子供たちの学習意欲の向上を図ることが大切である。

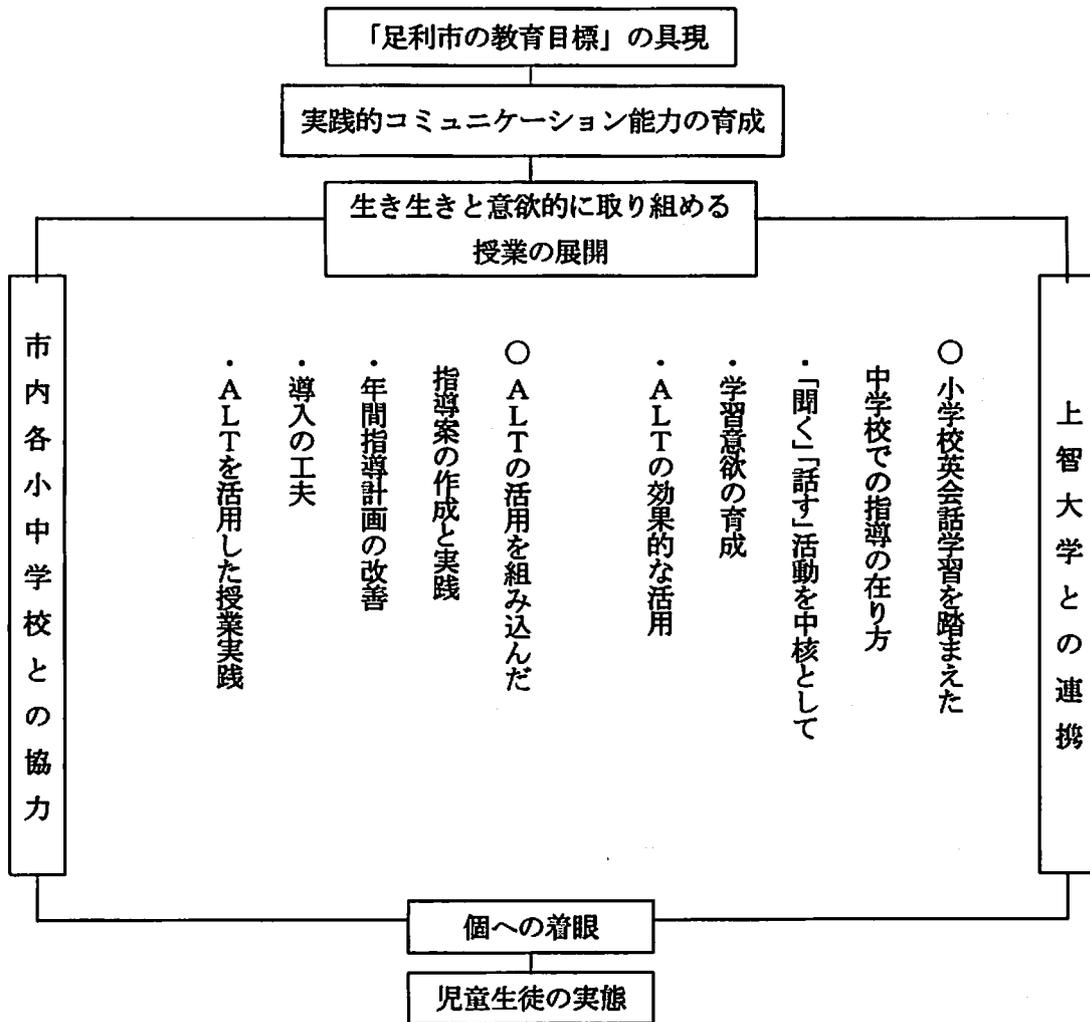
そこで、本研究では、国際社会で生きていく上で必要な実践的コミュニケーション能力の育成を目指し、中学校英語教育において小学校との連携を図りながら、必修英語におけるALTの活用の在り方を実践的に研究するとともに、指導計画の改善を通して子供たちの学習意欲を高めていくこととした。

## III 研究推進構想

### 1 基本的な考え方

- (1) 小学校英会話学習を踏まえ、「聞く」「話す」活動を中核として研究を進める。
- (2) 授業実践を通して、学習指導の改善や子供たちの学習意欲の育成を図るよう研究を推進する。
- (3) 小学校、中学校の研究交流を積極的に実施する。
- (4) 学習指導教材センター英語専門部と連携して研究を広げる。
- (5) 上智大学教授等の助言を受けながら、研究を深める。

## 2 研究推進構想図



## 3 研究の内容

- (1) 小学校英会話学習での「聞く」「話す」活動を踏まえた中学校での指導の在り方について理論研究する。
- (2) 市内各小中学校との協力を図りながら、必修英語におけるALTの活用の在り方を実践的に研究する。
- (3) ALTの活用を組み込んだ指導案の作成と実践をする。

#### IV 研究の実際

##### 1 研究の実際

###### (1) 17年度の取り組み

###### ○研究会について

- ・第1回研究会 平成17年10月21日(木)
  - ①研究計画の検討
  - ②小学校英会話学習を踏まえた中学校での指導の在り方
- ・第2回研究会 平成18年1月13日(金)
  - ①目標分析、生徒の実態把握
  - ②第1回研究授業のための話し合い
- ・第3回研究会 平成18年3月9日(木)
  - ①研究授業 毛野中学校 1年4組  
授業者 柏瀬理江、クリストファー・パウマン
  - ②授業研究会

###### (2) 18年度の取り組み

###### ○研究会について

- ・第1回研究会 平成18年5月1日(月)
  - ①研究の方針検討
  - ②研究計画の立案
  - ③内容の確認
- ・第2回研究会 平成18年8月2日(水)
  - ①研究授業の反省・確認
  - ②今後の予定

###### ○授業研究会について

- ・第1回 平成18年6月6日(火)  
第二中学校 2年2組 須藤泰章、バーバラ・マイヤーズ
- ・第2回 平成18年 6月22日(木)  
東山小学校 4年2組 高木美千代、ケリー・ルイス  
指導者 和泉 伸一 上智大学准教授
- ・第3回 平成18年6月23日(金)  
西中学校 1年5組 畔上敏江、ジョイスリン・スィーキット
- ・第4回 平成18年7月7日(金)  
北郷小学校 6年2組 松葉真佐江、ノール・ゲルマンソン
- ・第5回 平成18年10月12日(木)  
山前小学校 6年4組 斎藤静子、マーク・デッドマン
- ・第6回 平成18年10月13日(金)  
協和中学校 1年3組 瀬井由佳、アリソン・キャンベル

- ・第7回 平成18年10月30日(月)  
富田中学校 3年1組 根木鳴ますみ、アリソン・キャンベル
- ・第8回 平成18年11月13日(月)  
御厨小学校 6年3組 吉澤恵子、デボラ・モーガン  
指導者 吉田 研作 上智大学外国語学部長

### (3) 19年度の取り組み

#### ○研究会について

- ・第1回研究会 平成19年5月15日(火)
  - ①研究の方針検討
  - ②研究計画の立案
  - ③内容の確認
- ・第2回研究会 平成19年5月31日(木)
  - ①指導案の検討
  - ②今後の予定
- ・第3回研究会 平成19年9月11日(火)
  - ①指導案の検討
  - ②今後の予定
- ・第4回研究会 平成19年10月23日(火)
  - ①授業について
  - ②指導案の検討

#### ○授業研究会について

- ・第1回 平成19年6月26日(火)  
富田中学校 1年2組 根木鳴ますみ、マーク・シノット  
指導者 和泉 伸一 上智大学准教授
- ・第2回 平成19年10月23日(火)  
けやき小学校 6年2組 駒場眞一、マーク・デッドマン
- ・第3回 平成19年11月26日(月)  
毛野中学校 3年2組 柏瀬理江、キャサリン・ジョンソン  
指導者 吉田 研作 上智大学外国語学部長

## 2 小学校英会話学習について

### ・文字の扱いについて

授業での文字の取り上げ方については、児童が読めなくても文字を提示するのは問題ない。児童は文字の形を認識することができる。ただし、文字を用いて読

ませたりはしない。

・ゲームでの指導について

ゲームを取り入れると競争になってしまい、児童の発音や表現等がいい加減になってしまうことがあるので、その授業でのポイントの単語や文型等については、その都度きちんと指導する必要がある。また、スピードを競わせるのではなく、発音等に注意を向ける工夫が大切である。

・ALTとの自然な関わり

ハロウィーンの準備やクリスマスカードづくり等の作業の時に、ALTと児童との自然な会話が見られるようになってきた。個人から全体へと、少しずつまわりを巻き込んでいけるようにしたい。

・インプットのステップ

A) 担任の先生が、気軽にALTに声をかける。話す。

B) 休み時間等に担任の先生とALTが話している場面を子どもたちに見せる。

C) 授業中に teacher talk を多用する。

### 3 中学校における指導のあり方について

#### (1) タスク活動について

エクササイズ：形。表現の練習。形を覚える。正しく繰り返される。

タスク：意味。表現より内容。コミュニケーションの作業。

- ・パターン・プラクティス、ドリル等の活動は、機械的な訓練（エクササイズ）である。タスクにはゴールがあり、それに向かって子どもたちは英語で伝えようとするのでコミュニケーション能力の育成につながる。

#### ○タスクを用いた英語教育

- ・言語習得そのものより、言語を道具として「何を」するかが大切 (incidental learning)
- ・タスクを完成させるための英語活動の一貫性の重要性
- ・タスクの完成には、一人よりもグループ（ペア含む）活動が重要 (Communicative)
- ・評価はタスクが出来たかどうか第一（言語的評価とは別）

#### ○Communicative Competence

・Linguistic Competence（言語の知識）：文法能力、語彙

・Discourse Competence（談話の知識）：

ディスカッション、ディベート・・・中学校で

・Sociolinguistic Competence（社会言語学的知識）：

どういう時にどういう表現を使うか・・・小学校で

・Strategic Competence（方略的知識）：問題解決能力、交渉能力・・・タスクで

(2) Display Activities と Referential Activities について

- Display Activities : choice がない。答えが決まっている。教師は答えがわかっている。授業でやっているが、授業でしか使えない。

教室の中に限定

ex. Is this a book? (本を手に持ちながら)

Repeat after me.

What' s this?

Singing songs

Memorize the dialogue

Pattern Practice

Listening to CD

Explaining grammar points

Translation

- Referential Activities : 自由度がある。choice がある。答えが決まっていない。教師は答えがわかっていない。社会で使える。

教室外でも使える

ex. Do you like dogs?

Which do you like better, cake or ice cream?

Who is your favorite singer?

Small talk

Games, quizzes

Making and performing skits

Writing e-mail, birthday cards, Christmas cards, etc.

Communication tasks (solving problems, etc.)

Presentations and speeches

Show-and-tell

(3) PPP approach と Task-based language teaching について

○PPP approach (教え込むことから始まる) : 日本方式

1. Presentation (introduction of target point of the day)
2. Practice (practice of the target from by oral repetition and exercises)
3. Production (semi-communicative activity to use the target form)

PPP approach の問題点

- ・最初の presentation で、「今日のポイント」を学ぶ意味や必要性が感じられないままに授業が進んでしまいがち。

- ・生徒は先生の指示に従うしか自由がなく、授業がどうしても受身になってしまう。
- ・過剰に先生や教科書に依存する「教えられなければ出来ない子」となってしまうがち。
- ・Practice で出来ても Production になると、出来なくなる場合が多い。
- ・実際のコミュニケーション場面で、習ったことがなかなか使えない。応用が利かない。

→ 脱「教え込み」スタイルへの転換

○Task-based language teaching (体験学習から始まる) : ヨーロッパ、アメリカ方式

1. Pre-task (introduction of the topic and the useful form in context)
2. Task (communicative task activity → rehearsal → report)
3. Post-task (language focus)

Task-based language teaching の利点

- ・コミュニケーションのコンテキストと意味を与えることが出来る。(頭に残りやすい)
- ・完璧に出来なくても使ってみる中で積極的な体験学習が出来る。
- ・クラスメートや先生と一方的ではない双方向のコミュニケーションとつながりが出来る。
- ・task cycle の中に rehearsal や report を入れることにより、正確さを強調した場面を授業に組み込むことが出来る。
- ・使う体験をした後に language focus を入れることにより、余裕と研ぎすまされた必要感を持って、細かい所にも気を配ることが出来る。

#### 4 小学校と中学校の英語教育の連携のための提案

##### ①児童と生徒の小中連携

- ・中学生が総合的な学習の時間等を使って、ハロウィーン等を小学校で紹介する。
- ・小学生が英語劇を中学生に見てもらう。
- ・小学生が修学旅行でのことを中学校で発表する。

##### ②先生の間の中連携

- ・お互いに授業を見合う。
- ・小中学校合同の研修会を開く。

##### ③連携のステップ

- A) 「知る」(小学校、中学校のそれぞれの目標、指導内容や指導方法について情報交換する)
- B) 「見る」(それぞれの授業を見学し合う)
- C) 「交流する」(上記を踏まえた上で小中の先生方の授業交流を行う) TTが

出来るとなおい。

D)「深める」(児童と生徒の交流活動をする)

④具体的な取り組み

- ・校内放送の利用。(朝や給食の時間に英語を使った放送をする。)
- ・イングリッシュルームの活用。(この部屋に入ると、全て英語になる)。
- ・校舎内の掲示の英語での併記。
- ・日本人の先生が子どもたちの前でALTとコミュニケーションをとっている姿をたくさん見せる。

V 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 小学校英会話学習、中学校英語教育について相互に知ることを通して、小中学校の連携の重要性を改めて認識することができ、具体的な努力目標を明確にすることができた。
- (2) 小学校英会話学習での「聞く」「話す」活動を踏まえた上で、ALTの効果的な活用を組み込んだ指導案を作成し、実践をすることができた。

2 今後の課題

- (1) 小学校英会話学習での「聞く」「話す」活動を踏まえた上で、中学校での入門期の指導を中心に、「読む」「書く」活動へつなげる有効な指導法の研究を進めていきたい。
- (2) 中学校へ入学しても、子どもがあきらめずに積極的に英語学習に取り組もうとする情緒的な(自信を持たせること)面の育成の研究を進めていきたい。

# 英会話学習指導案

平成18年6月22日(木) 第5校時

4年2組 指導者 T1 高木 美千代

T2 ケリー・ルイス

1 主題名 自分のことを話そう

2 題材について

本題材は、子どもたちの身近なことがらを英語で話すことができるように設定したものである。子どもたち自身の興味・関心や家族について、英会話指導員やクラスの仲間と会話をすることで、簡単な自己表現ができるようにしていきたい。

子どもたちに人気のあるキャラクターを例に、パターン練習やゲーム活動を通して、楽しみながら会話表現に慣れさせたいと考えている。その後、子どもたち自身の興味・関心など、実際に自己表現できるよう支援し、いろいろな人とコミュニケーションする楽しさを体験させたい。

3 児童の実態

本年度は年間35時間をあて、英語に親しむ活動に取り組んでいる。児童の英会話への興味・関心は比較的高く、英会話指導員の話の聞いたり、英語を発音したりすることが好きな児童が多く見られる。しかし、自信がなく、英会話を通しての自己表現がうまくできない児童も見られる。

また、パターン練習やゲーム活動に入る際に、その説明を理解できず、活動にスムーズに移れないということもある。児童に説明をしっかりと聞かせるとともに、その内容もできるだけ簡単に、視覚にうったえる等の工夫をしていきたいと考えている。

4 指導計画(3時間扱い)

ねらい	時間	主な言語材料	準備
自分について①	1	Where do you live? I live in Sukedonaka-cho.	CD ワークシート シール
自分について②	本時	I'm a Doraemon fan. Are you a Doraemon fan?	CD カード
自分について③ 家族紹介	1	I have a brother. He is a SMAP fan.	CD カード

5 本時の指導 (2 / 3)

(1) ねらい

・ Are you a ~ fan? I'm a ~ fan. の表現を使って, 意欲的に活動できる。

(2) 展開

学習活動	時間	児童への支援・指導上の留意点	準備
1 あいさつをする。	5	・ 既習の英単語を使って元気にあいさつできるよう配慮する。	CD
2 「Head, Shoulder, knees and toes」を歌う。		・ 体を動かしながら楽しく行えるよう留意する。	
3 課題表現の導入 何の絵かを当てさせる。 T2: What's this? S: It's a ~. T2: Are you a ~ fan? T1: Yes. I'm a ~ fan.	1 0	・ 本時の課題表現を導入する。 ・ 絵カード 側面絵: 鉛筆, 本等の特定角度から見た絵 キャラクター: ドラえもん, キティーなど	絵カード ・ 側面絵 ・ キャラクター絵等
4 課題表現の練習 ・ Yes / No で教室を移動 ・ T2 の質問に Yes / No を選択し口頭練習を行う。	1 0	・ T2: Are you a Kitty fan? T1: Yes. I'm a Kitty fan. Are you a Kitty fan, too? T2: No. I'm a Mickey fan. と課題表現を導入する。 ・ T1 がカードを選び全体に示す。 T1: Ok. Here's a Doraemon! ・ T2: Are you a Doraemon fan? に対して Yes. は教室の右側に, No. は左側に移動 Are you a Doraemon fan? Yes. I'm a Doraemon fan. の練習	サインカード
5 推測ゲーム ・ 友人の好きなものを当てポイントを得るゲームを行う。3回以内に当てられればポイントとなる。 <u>Are you a ~ fan?</u> <u>Yes. I'm a ~ fan.</u>	1 5	・ Yes 側の児童全体で, No 側の児童に質問 ・ No 側の児童全体で, Yes 側の児童に質問 ・ 数回行い慣れたところで, T1, T2 の役割を児童に行わせる。 ・ T1, T2 がゲームの見本を示す。 T1: Are you a Doraemon fan? T2: No. T1: Are you a Mickey fan? T2: Yes. I'm a Mickey fan. (カードにサイン) T1: Thank you. T2: You're welcome.	
6 まとめとあいさつをする。	5	・ サインカードを配りインタビューの仕方, 記入方法を確認する。 ・ T1, ゲーム活動に参加できているか観察し, できていない児童の支援をする。 ・ T2, 児童と一緒にゲームを行う。 ・ 課題表現を身近な表現として活用することを確認する。 S1: Are you a SMAP fan? S2: Yes. I'm a SMAP fan.	

(3) 評価

・ Are you a ~ fan? I'm a ~ fan. の表現を使って意欲的に活動できたか。

# 英会話学習指導案

平成18年11月13日(月) 第5校時  
6年3組 指導者 T1 吉澤 恵子  
T2 デボラ モルガン

## 1 主題名 足利で有名なものを考えよう

### 2 題材について

本題材は、地域文化の紹介をテーマに取り上げ、それをモチーフにしなが自分たちの身近にあることがらに目を向け、自分で紹介したいと思うことを見つけ、英語で進んで話そうとすることができるようになることをねらいとして設定したものである。国際理解教育の中の自国文化理解という観点からも、地域の歴史や文化に興味関心を持ち、伝えたいことを英語で表現し、紹介し合えるようなコミュニケーション力を養いたい。

導入では、児童を巻き込みながら教師によるデモンストレーションを行い、できるだけ児童の興味関心を引き出せるような補助発問をし、児童個々の感じ方、思いを引き出せるようにしたい。答えの後に特に形容詞表現を付け加えることにより、話者の答えの意図が明らかとなり、会話が情意的で生き生きとしたものとなってくると考える。児童の自由で多様な表現を認め、尊重し、共有化することによって、発話意欲を高めたり、英語で表現することへの自信を持たせたりするようにしたい。

パターン練習では、今日の表現の定着を図り、ゲームでは、それを活用して自分の言いたいことを英語で表現したり、人に伝えたりすることの楽しさを味わえるようなタスク学習を考えたい。T1、T2は協力して、個々の児童のニーズに応じた支援をしていけるよう心がけたい。

### 3 児童の実態

本校では、6年生児童は年間35時間を英会話学習と位置づけ、週1時間の学習を行っているが、本学級の児童は、毎週1時間の英会話学習をとても楽しみにしており、授業以外の場でも、英会話学習指導員との交流に積極的で、気軽に話しかけたり、遊んだりする姿が見受けられる。

少しずつではあるが、間違いを気にせず英語で表現してみようという意欲が高まってきているように思われる。しかし、中には人前で声が小さくなってしまったり、遠慮してしまったりする児童も見られるので、自分の言いたいことに自信を持って表現できるようなアプローチの仕方や支援の方法を考えていきたい。日常生活の場においても、それぞれの児童の思いや感情を大切に、自己表現の意欲を高められるような工夫を図り、英会話学習の場に生かしていけるようにしたい。

### 4 指導計画(4時間扱い)

ねらい	時間	主な言語材料	準備
それはどんなか言ってみよう	1	What's it like? It's soft.	絵カード、実物 ワークシート
足利で有名なものを考えよう	本時	What's famous in Ashikaga? Ashikaga Gakko. It's very old.	写真、実物 ワークシート
どうやってそこに行くか言ってみよう	1	How can I get there? By taxi.	写真、絵カード ワークシート
どのくらい遠いか言ってみよう	1	How far is it? In 10 minutes.	写真、絵カード ワークシート

6年生 足利ってどんな町？	指 導 案 Lesson Plan		11月-2
めあて Aims	足利で有名なものを考えよう Q: What 's famous in Ashikaga ? A: Ashikaga Gakko. It's very old.		足利では何が有名ですか。 足利学校です。 それは、とても古いです。
学 習 活 動 studying contents		時 間 time	準 備 等 preparations
1 あいさつ (Greetings) ・ T1,T2 と教室の入り口でに前時の表現の復習をしてから入室する。			3
2 ウォームアップ (Warm up) ・ 今月の歌(Song) “Wheels on the bus” を楽しく歌う。			3 MD
3 活動 (Activities)			
(1) 有名なものを紹介する言い方を知る。(Demonstrations)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           T1 : What's famous in America?            T2 : Micky mouse. It's very cute...            T2 : What's famous in Japan ?            T1 : Sumo. It's very strong...         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 は、児童に会話内容を予想させ、本時の学習の目当てを確認する。</li> <li>・ T1、T2 が紹介した物ごとについて、できるだけ多くの児童から感想を引き出すような発問をし、関心を持たせ、自分が感じたことを英語や日本語で表現させることで、発話への意欲を高める。</li> <li>・ 英語で何というか訪ねたいときには、ヘルプカードを使ってよいことを知らせる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           T1 : Do you like it? これ、好き? / What's it like? それ、どんなの? 今までに見たことある? / ここへ行ってみたい?            S: Yes / No. / It's very big / old / tall ...            見たことがない / 今度行ってみたい...         </div>	10	T1、T2 の紹介したい物
(2) ALTについて今日の表現をリズムに乗って練習する。 (Today's expression practice)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           T1 : What's famous in Ashikaga ?            T2 : I don't know. What's famous in Ashikaga ?            S:(                    ). It's very (                    ).         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童に発問を投げかけることにより、発話の意欲を喚起したい。</li> <li>・ 足利市で有名な物については、事前に調べさせ、関心を持たせておくようにする。</li> </ul>	10	写真等
(3) 今日の表現を使って、楽しくインタビューゲームをする。 (Task activity Game)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           A : What's famous in (                    )?            B :(                    ). It's very (                    ).         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1 は、日本語でゲームの仕方について補説し、確認する。</li> <li>・ 表現活動に広がりを持たせるため、学校内や学区、県内、国内の有名なものについても言ってよいことにし、多様な表現の可能性を認め、意欲的な活動をねらいたい。</li> <li>・ 2人組みになり、質問しあい、ポイントカードに得点を記入する。</li> </ul>	15	ワークシート  写真等
4 まとめ (Quick Review) 今日の表現を確認する。			3
5 あいさつ (Greetings)			1

## 英語科学習指導案

平成19年 6月 26日(火) 第5校時  
1年2組(男子11名、女子8名 計19名)  
指導者 根木嶋 ますみ, Mark Shinott (ALT)

### 1. 単元名 Lesson 4 At a Nature Park

### 2. 単元設定の理由

物が1つのときに名詞の前に a をつけることや、数字の言い方はすでに学習した。そこで、この単元では、物が1つのとき(単数)と物が2つ以上になったとき(複数)の違いに気づかせ、数量について尋ねる質問の仕方とその答え方を理解させたい。

また、この単元では自然環境の校外学習を題材にしているが、本校でも7月のはじめに遠足を計画しており生徒たちが自然にふれる機会があるので、この単元を利用して自然とどのように接していくべきかを学習させたい。

### 3. 単元目標

- (1) How many - ?の文を用いて数量について教師や友人と積極的に問答しようとしている。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 複数形を含む文を言ったり、書いたりすることができる。  
命令文や否定の命令文を言ったり、書いたりすることができる。(表現の能力)
- (3) 数量を聞く質問やその答え方を聞いたり、読んだりしてその内容を理解できる。  
命令形や否定の命令文を聞いたり、読んだりして理解することができる。(理解の能力)
- (4) 単数と複数の違いを理解し、数量についての聞き方と答え方が分かっている。  
命令形や否定の命令文の構造を理解している。(言語や文化についての知識・理解)

### 4. 単元の指導計画 (5 時間扱い)

時間	学習内容	観点			
		コ	表	理	言
第1時 (本時)	• 名詞の複数形の理解と、数の聞き方と答え方の練習	○			○
第2時	• セクション1の内容把握			○	
第3時	• セクション2の内容把握			○	
第4時	• 命令文や Don't を含む否定の命令文の理解と練習			○	○
第5時	• セクション3の内容把握		○	○	

## 5. 生徒の実態

小学生の時に英会話学習の授業で学習しているため、大部分の生徒は日常生活の簡単な単語をたくさん知っており、英語に対する興味・関心も高く、意欲的に英語学習に取り組んでいる。反面、英語に対して苦手意識をもつ生徒も数名おり、発表の声が小さかったり、授業への集中がとぎれてしまったりすることがある。

コミュニケーション能力の育成のために、ペア活動を取り入れるようにしているが、全体的に協力して楽しく活動できている。ただ、英語に苦手意識をもつ生徒がいるペアでは、理解が不十分なためなかなか活動に参加できず、孤立することもある。

生徒たちは競争心をあおるゲーム活動が好きで、活発に楽しく取り組んでいるが、競うことばかりに集中して、英語を正しく使わなくなることがある。また、アルファベットについては、十分に書くことができない生徒が数名いる。

## 6. 本時の指導

(1) 題材名 Lesson 4 At a Nature Park ①

(2) 本時のねらい

①積極的に英語を使って、コミュニケーション活動をしようとしている。(関心・意欲・態度)

②名詞の複数形について理解し、数量についての聞き方と答え方がわかっている。(言語や文化についての知識・理解)

(3) 小学校英会話学習との関連

①フォニックスを効果的に利用することで、「聞くこと」から「書くこと」への連携を図る。

(4) 展開 (別紙)

## (4) 展開

学習活動	時形	生徒の活動	指導上の留意点	評価
1 ウォーミングアップ ・既習事項の復習	10 一斉	・あいさつ ・ゲームをする。(数字を順番に言うていくが、3の倍数は手をたたく)	・生徒が意欲的に話せるよう声かけをする。	・数字を英語で正しく言うことができたか。(観察)
2 本時のめあてを知る。				
3 名詞の複数形について理解する。 ①複数形について知る。	15 一斉	・JTEとALTの会話を聞き、内容を理解する。	・絵やジェスチャーを用いることで、生徒の理解を助けるようにする。 ・複数の時は、語尾にSがつくことに気づかせる。	・類推して会話の内容を理解することができたか。(発表・観察)
②複数形を書く。	個人	・フォニックスを利用して、複数形を書く。	・机間指導をすることで、個別に支援をする。	・正確にノートに書くことができたか。(観察)
4 コミュニケーション活動 ①ペア・ワーク	22 ペア	・2種類の絵の中に描かれている物の数をペア同士で聞いたり、答えたりする。	・ペアで助け合って質問しあえるようにする。また、複数形の時、sをつけて話しているか気を付けさせる。	・数の聞き方と答え方を、正しく理解することができたか。(観察・発表)
②インタビュー・ゲーム	個人	・動物の数について聞き、動物園の情報を完成させる。	・孤立している生徒がいないように配慮する。	・積極的にコミュニケーションをとろうとしていたか。(観察)
③ワークシートにまとめる	個人	・メモした動物の数を参考に、調査書を作成する。	・複数形にSがついているか確認する。	・正確に書くことができたか。(ワークシート)
5 本時のまとめと、次時の予告を聞く。	3	・数の聞き方と答え方を確認する。	・次時への意欲付けを図るようにする。	

# 英語科学習指導案

平成 19 年 11 月 26 日 (月) 第 5 校時

3 年 2 組 (男子 13 人 女子 19 人)

指導者 柏瀬 理江

Katherine Johnson

- 1 題材名 Do It Write 1 「扇子」を説明してみよう  
(New Crown English Series Book 3)

## 2 題材について

### (1) 目標

- ①間違いをおそれず英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ②既習の文型を用いて外国の人たちに日本の文化について理解を深めてもらうよう、扇子などの日本文化を説明する英文を言ったり書いたりすることができる。  
(表現の能力)
- ③ALT や JTE の質問について、的確に反応することができる。また、他者の発表を大まかに理解することができる。  
(理解の能力)
- ④身近にある物を紹介する仕方を理解している。  
(言語や文化についての知識・理解)

### (2) 題材観

ここでは、外国の人たちに対して、扇子などの日本文化を説明する英文について学習する。それを元に、生徒が普段意識していない日本文化に目を向けさせ、異文化との違いやそのよさなどを考えさせながら、それを既習の単語や文型を使って自分の言葉で表現させたい。また、学習活動の一部に ALT とのやりとりを取り入れ、英語を用いてさまざまな人と対話することの楽しさも味わわせたい。

## 3 小学校英会話学習との連携を踏まえて

足利市の小学校では、英会話学習の指導計画に異文化理解を位置づけ、他国の言葉や食文化などを紹介している。それを中学校でも、さらに伸ばせるよう意識して指導していきたい。また、小学校英会話学習の中で重点的に行っていたコミュニケーション活動をいかに中学校の授業に取り入れ、生徒の会話力や意欲を持続させるかも課題だと考えている。ALT の中学校への常駐を生かし、生徒の発達段階を考慮しながら、授業での学習形態を工夫して効果的な指導を行いたい。また、中学校では文字が導入され、「読む」、「書く」などの表現活動を通じた学習が小学校との大きな違いである。4 技能を効果的に組み合わせ、生徒の意欲や学力を積み上げる指導を心がけたい。

#### 4 生徒の実態

一般的に明るく穏やかな生徒が多いが、3年生に進級するときに編成されたクラスで、クラス内の人間関係はまだ成熟していないように感じる。そのためか、声を出すような活動は全体的に消極的である。しかし、学習習慣は身につけている生徒が多く、落ち着いて授業に取り組むことができる。また、話し合いを通して編成された生活班では、どの班も協力して諸活動に参加している。ペア活動、班活動、個人の学習など、学習形態に変化をもたせることによって、授業の活性化を図りたい。

この学年は、小学校で本格的な英会話学習を受けていない。現1, 2年生に比べると、英語を聞き取ることや英語でのコミュニケーション活動に抵抗をもっているように感じる。さまざまな活動を取り入れながら4技能をバランス良く伸ばすよう、授業計画を立てて実践していきたい。

#### 5 指導計画と評価計画 (2時間扱い)

時間	学 習 活 動	観 点			
		コ	表	理	言
1	・教科書の内容を理解する。 ・班ごとに日本文化に関するものを選び、紹介する英文を用意する。	○		◎	○
2 本時	・班ごとに選んだ日本文化に関するものをALTに売り込む。 ・日本文化を紹介する英文を書く。	○	◎		

#### 6 本時の指導

(1) Do It Write 1 「扇子」を説明してみよう (2時間扱いの2時間目)

(2) ねらい

- ・積極的に自分たちの発表に参加し、コミュニケーションを図ろうとしている。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・自分たちの選んだ物についてALTが理解できるような発表を行い、それを英文で書くことができる。  
(表現の能力)

(3) 展開

学習活動	時・形	生徒の活動	指導上の留意点	評価
1 ウォーミングアップ	2分 グループ	・ゲームHangmanに参加する。	・英語で活動する雰囲気を作ること で学習への意欲を喚起する。	積極的に活動に参加できたか。 (観察)
2 復習 本文の内容確認 本時のめあてを知る	5分 グループ	・ALTの質問に答えながら、本文の復習をする。	・生徒の様子を観察し、それによつて質問の仕方を工夫する。	各班で話し合い、積極的に答えようとしていたか。 (観察)
3 導入 ALTのオーストラリア文化紹介	5分 グループ	・ALTの紹介するオーストラリアのものを聞き、理解する。	・実物を効果的に活用したり、JTEがALTに質問することで、生徒が理解しやすくする。	
4 展開 ①班ごとの発表準備  ②班ごとの発表	28分 グループ	・自分たちの紹介する物について発表内容などを確認する。教室内の参観者のところへ行って、発表の練習を行う。  ・ALTに自分たちが選んだ物を紹介する。 ・ALTからの質問に答えながら、さらに自分たちの物を薦める。他の班の発表を聞いて理解する。	・班員が必ず各自の役割をもつようにし、それを果たすよう支援する。 ・各班とも3人以上の参観者のところへ行き、練習するよう促す。  ・質問を工夫することで、生徒の発表を活性化させる。 ・発表全体についてコメントすることで、生徒の成就感を味わわせるようにする。	班で協力し活動していたか。 (観察) 各班3回以上の練習を行うことができたか。(観察)  原稿に頼らずはっきりと発表することができたか。 (観察)
5 まとめ 日本文化に関する物についての英作文	10分 個人	・日本文化に関する物を一つずつ選び、英語で説明文を書く。	・各班の発表が、生かせるような言葉かけをする。	5文以上の英文で、説明文を書くことができたか。 (ワークシート)

Date: 26th November, 2007 Class: 3-2 in Keno Junior High School Teachers: Rie Kashiwase/ Katherine Johnson	Material: Do It Write 1 (New Crown English Series 3 p49,50) Objectives: to recommend some Japanese things to people from foreign countries to write an explanation about Japanese things
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Performance Objectives	time/form	Learning Process for Students	Instructional Regards	Assessment
1 Warm-up	2 min group	•Join the game, Hangman.	•Create a good atmosphere in which to study English.	•positive attitude
2 Review the contents of the textbook	5 min group	•Answer the questions of the ALT and review the textbook.	•Watch the students and change the questions if needed.	•good co-operation in groups
3 Introduction ALT's introduction of Australian things	5 min group	•Listen to the explanation and understand how to recommend things to others.	•Use pictures or the thing itself and make the explanation easier.	
4 Presentation ①Preparation in groups  ②Presentation	28 min group	•Check their English to recommend things and their roles. •Practice their presentation with the observers three times. •Recommend what they've chosen to the ALT. •Answer the questions from the ALT.	•Make every students have his/her role and help the activities in groups.  •Ask good questions and make their presentation active. •Comment about their presentation and praise their activities.	•good co-operation in groups •positive participation of each student •practice more than three times  •clear explanation •memorize or impromptu response
5 Writing	10 min individual	•Choose one Japanese thing and write an explanation for it.	•Tell the students to use the expressions they've used in their presentation.	•write the explanation with more than five sentences

平成17年度研究員

須藤 泰章 (第二中学校)      柏瀬 理江 (毛野中学校)      佐藤 治子 (山辺中学校)  
手塚多美江 (西中学校)      蓼沼三智代 (北中学校)      小林香利奈 (佐野市立城東中学校)

平成18年度

須藤 泰章 (第二中学校)      柏瀬 理江 (毛野中学校)      佐藤 治子 (山辺中学校)  
手塚多美江 (西中学校)      蓼沼三智代 (北中学校)      根木嶋ますみ (富田中学校)

平成19年度

駒場 眞一 (けやき小学校)      阿部 聡 (三重小学校)      渡邊友紀子 (御厨小学校)  
須藤 泰章 (第二中学校)      柏瀬 理江 (毛野中学校)      佐藤 治子 (山辺中学校)  
蓼沼三智代 (北中学校)      根木嶋ますみ (富田中学校)      五十嵐真里江 (坂西中学校)

指導助言

吉田 研作 上智大学外国語学部長      和泉 伸一 上智大学准教授

担当指導主事

新井 功      竹越 功祐      近藤 忠